

# 浄泉寺通信

第10号  
 年4回発行  
 浄土真宗本願寺派  
 吉見布教所浄泉寺  
 埼玉県比企郡吉見町  
 久保田40-1  
 発行責任者 福井学誠

松本紹圭しゅうけいさんをお招きして、10月5日に第2回「いのちの講演会」を開きました。以下はその抄録です。



松本紹圭さん

本日は「お寺はいのちの学校」と題してお話しさせていただきます。

法事や葬式の仏事のお寺は参詣が減っているもの、お墓参りは目立った変化もなく現代も続いています。ご自分がお墓にお参りするときを想像してください。手を合わせながら何を思い、どんな言葉をかけますか？(来場者に聞く)「元気に頑張っています。ご先祖の皆さま待っていますね」「お世話になり、ありがとうございます」「わたしは毎月一日に感謝の気持ちで必ずお参りしています」など。哲学者の池田晶子さんのコラムに、生前好きだった言葉を墓石に彫る習わしがイタリアに残されていると紹介されています。ローマのあるお墓の前まで来ると、誰もがギョッと

して立ち止まるそうです。その墓石に書いてあるのは、「次はお前だ」。この墓石を見た者に、死を意識させずにはおかない強烈な印象があります。池田さんは書いています。「楽しいお墓ウォッチングをしていたのここへ来るとギョッとする。他人事だった死が、自分のことだったと気付かされます。来年はわたしがいなくなっているのかもしれない。いま生きているといつか奇跡的なことです」。

ところで、自分がお墓の中に入ったとして、つまり自分がお参りされる側になったとして、誰にお参りに来て欲しいですか？どのぐらいの頻度でお参りに来て欲しいですか？何をお供えして欲しいですか？(来場者に聞く)「お墓が汚

れるから食べ物はいらないけれど、自分が好きだったものは覚えておいてもらいたいからいチジクとトマトをお供えして欲しい」「わたしは何もいらないうえ」「きれいなお花があればいいです」皆さん、ずいぶん控えめですね(笑)。先日九州で同じ質問をしたところ、男女とも一番多かったのが「お酒」という答えでした。では、お参りする人にどのように生きて欲しいと願いますか？(来場者に聞く)「健康で社会に迷惑をかけないように一生を送って欲しいと、子や孫につねづね言っています」「家庭があれば家庭円満に生きてほしい」「ご恩感謝の気持ちを常に持つてもらいたい」「家族仲良くして欲しい」「穏やかな気持ちで生きて欲しい」など。

皆さんから頂いた言葉はどれも素晴らしい、仏さまに聞かされたかのようなものばかりです。それもそのはずで、お墓に入った気になってお聞きしていますので、仏さまになられたような言葉が出てきて良いのです。願いは仏教でも大事にしている考えで、仏さまの願いをきちんと受け止

めて聞いていきたいものです。また若い世代を中心に、あの世を信じる人は全体のおよそ半数にまで増えている、宗教を求める人が減っているとは必ずしも言えなくなっています。

「お寺と檀家さん」という関係はこれまで閉鎖的なイメージがあり、家族誰かの死を縁にするものと考えられがちでしたが、家族の形が変化しているように感じました。

「お寺と個人」の関係が見られるようになってきました。檀家さんの多寡という見えない部分ではなく、見えない根の部分、まずはどんな思いでそのお寺が作られたのかという理念です。住職がどんな思いでお寺を開いたか、それを支える檀家さんはどんな思いでお寺を盛り立てているか。次にどんなチームワークでお寺が運営されているかの組織力、そしてお寺と檀家さんの関係性です。皆さんが自らの家族とのちを考えた時、その中心にお寺があって欲しい。生きていく人のために開かれたお寺を、ご自身で選んでその門を叩いてください。(談)

れも素晴らしい、仏さまに聞かされたかのようなものばかりです。それもそのはずで、お墓に入った気になってお聞きしていますので、仏さまになられたかのような言葉が出てきて良いのです。願いは仏教でも大事にしている考えで、仏さまの願いをきちんと受け止

めて聞いていきたいものです。また若い世代を中心に、あの世を信じる人は全体のおよそ半数にまで増えている、宗教を求める人が減っているとは必ずしも言えなくなっています。

「お寺と檀家さん」という関係はこれまで閉鎖的なイメージがあり、家族誰かの死を縁にするものと考えられがちでしたが、家族の形が変化しているように感じました。

「お寺と個人」の関係が見られるようになってきました。檀家さんの多寡という見えない部分ではなく、見えない根の部分、まずはどんな思いでそのお寺が作られたのかという理念です。住職がどんな思いでお寺を開いたか、それを支える檀家さんはどんな思いでお寺を盛り立てているか。次にどんなチームワークでお寺が運営されているかの組織力、そしてお寺と檀家さんの関係性です。皆さんが自らの家族とのちを考えた時、その中心にお寺があって欲しい。生きていく人のために開かれたお寺を、ご自身で選んでその門を叩いてください。(談)

また若い世代を中心に、あの世を信じる人は全体のおよそ半数にまで増えている、宗教を求める人が減っているとは必ずしも言えなくなっています。

「お寺と檀家さん」という関係はこれまで閉鎖的なイメージがあり、家族誰かの死を縁にするものと考えられがちでしたが、家族の形が変化しているように感じました。

「お寺と個人」の関係が見られるようになってきました。檀家さんの多寡という見えない部分ではなく、見えない根の部分、まずはどんな思いでそのお寺が作られたのかという理念です。住職がどんな思いでお寺を開いたか、それを支える檀家さんはどんな思いでお寺を盛り立てているか。次にどんなチームワークでお寺が運営されているかの組織力、そしてお寺と檀家さんの関係性です。皆さんが自らの家族とのちを考えた時、その中心にお寺があって欲しい。生きていく人のために開かれたお寺を、ご自身で選んでその門を叩いてください。(談)

### 子ども寄席開きました



埼玉大学落語研究会のお兄さんを浄泉寺にお招きして、7月28日「子ども寄席」を開きました。夏休みに入ったばかりで、近所の子どもたちはとても元気。仏さまの前でお兄さんたちの「寿限無」を聞いて笑った後、みんなで流しそつめんをいただきます。写真中央右のお兄さんは部長さんで現在四年生、教員を目指して猛勉強中とか。身を乗り出して聞く子どもたちと掛け合いながらの斬で、とっても楽しい高座でした。お兄さん、そしてお手伝いいただいた皆さま、大変ありがとうございました。

### 西本願寺参拝旅行のご案内

京都の西本願寺と大谷本願に参拝する一泊旅行のご案内です。途中参加や自由行動等ご希望の方はお気軽にご相談ください。

■ 11月22日 (金) 10時台  
 の新幹線で  
 東京駅発

13時頃京都駅着ー西本願寺書院と飛雲閣を拝観ー大谷本願参拝ー京都駅近くの旅館泊

11月23日(土) 6時西本願寺朝の

おつとめ参拝(帰敬式)ー秋の法要にて合唱ー夕方方京都駅より新幹線ー東京駅着

■ 参加費36,970円(新幹線往復切符代と宿泊費のみです)

■ ご門主様から法名を頂く帰敬式を、皆さん一緒に受式します。ご希望の方は1万円を追加ください。

■ 参加締切 11月15日(金)

手蘭盆会(うらぼんえ)を7月15日、築地本願寺(東京・中央区)でお勤めいたしました。富山県上市町浄泉寺の福井静志住職も出席し、大勢の方にお参りをいただきありがとうございました。また、毎月第三金曜日夜の勉強会では『歎異抄』を終えたため、テキストを『親鸞聖人御消息』にして今後も続けていきます。京都で晩年を過ごされた親鸞聖人が東国の門弟に宛てたお手紙が43通確認されています。手紙というものは、自分の思いを伝えようと丁寧に書きます。親鸞聖人のお手紙を一通ずつ味わうことで、『歎異抄』もまた違った角度でいただけると思いますが、どなた様もお気軽にご参加ください。

12月14日(土) 13時  
 常例法話出講

正福寺(埼玉県新座市)  
 12月20日(金) 19時

親鸞聖人御消息講座(第2回)  
 フレサよしみ

12月31日(金) 16時  
 除夜会

浄泉寺本堂(吉見町)

1月1日(土・祝) 8時  
 元旦会

浄泉寺本堂(吉見町)

【浄泉寺の今後の活動】  
 10月18日(金) 19時  
 親鸞聖人御消息講座(第1回)  
 フレサよしみ(埼玉県吉見町)

11月9日(土) 13時  
 報恩講話出講  
 誓興寺(群馬県前橋市)

11月16日(土) 未明  
 報恩講演夜布教出講  
 築地本願寺(東京・中央区)

■ つい先日、NHKスペシャルの放送で知りましたが、中国で宗教が広がっているそうです。急速な経済成長の末、国民の間に横たわる退廃的な空気はもはやいかんともしがたく、相互扶助と他者への愛や信を訴えるキリスト教と道教が国民の信頼を集めていて、かつ共産党も公認する強大な勢力になっているという内容でした。わたしも論語の素読を近所の子どもにも教えていますが、親を敬い感謝の念を持つ徳の価値は、いつの時代もどの国家であっても色あせません。伝統的な価値観がいままた必要とされているのは、日本も同じだと感じました。(住職)